

平成 29 年度全国学力・学習状況調査(小学校)

算数 A

主として「知識」に関する問題

平均正答率

市 82%
 国 [78.6%]
 県 (81%)

区別定着状況

【数と計算】 87.0% [80.6%] (83.0%)
 【量と測定】 71.0% [68.8%] (71.2%)
 【図形】 81.5% [81.1%] (83.1%)
 【数量関係】 83.3% [79.6%] (82.1%)
 ※ [] 内は全国平均を, () 内は県平均を表します。

正答率の高い設問(上位3問)

- 乗法で表すことができる二つの数量の関係
(問1 (1)) 98.6% [96.9%] (97.3%)
- 乗法の性質について
(問1 (3)) 94.9% [91.0%] (91.1%)
- 資料を二次元表に分類整理する
(問9 (1)) 94.2% [88.0%] (89.5%)

正答率の低い設問(下位3問)

- 二次元表の合計欄に入る数を求める
(問9 (2)) 58.0% [62.8%] (64.6%)
- 数量の関係を数直線に表す
(問1 (2)) 63.8% [69.9%] (73.6%)
- 任意単位による測定について
(問4) 70.3% [70.7%] (72.9%)

算数 B

主として「活用」に関する問題

平均正答率

市 49%
 国 [45.9%]
 県 (47%)

区別定着状況

【数と計算】 57.0% [52.8%] (55.0%)
 【量と測定】 48.2% [47.0%] (47.1%)
 【図形】 13.8% [13.2%] (13.5%)
 【数量関係】 42.7% [40.0%] (41.8%)
 ※ [] 内は全国平均を, () 内は県平均を表します。

正答率の高い設問(上位3問)

- 示された考えを解釈し, 図に表現する
(問1 (2)) 84.8% [81.8%] (82.0%)
- 示された条件を基に, 適切な式を立てる
(問1 (1)) 83.3% [76.0%] (78.6%)
- 飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式
(問3 (1)) 68.8% [67.9%] (68.8%)

正答率の低い設問(下位3問)

- 基準値, 比較量, 割合の関係を捉え, 理由を記述
(問5 (2)) 13.8% [13.2%] (13.5%)
- 示された方法を問題場面に適用
(問2 (2)) 27.5% [27.4%] (27.3%)
- 仮の平均の考え方を活用して, 測定値の平均を求める
(問3 (2)) 27.5% [26.1%] (25.4%)

結果から見る

○考察

算数A, 算数Bともに全国平均を上回っており, これらの学習内容はおおむね定着していると考えられます。

○今後の指導について

今後, 算数Aに関しては, 資料を二次元表に分類整理する過程を振り返りながら, 合計欄の数値について確認する活動等を設け, 二次元表の数値の意味を理解させる必要があります。

また, 算数Bに関しては, 図や式などを用いて問題を解決し, 互いに図や式の意味を解釈し説明し合う活動を設けたり, 立式するだけでなく, 示された式について, その数値はどこから導き出されているか, どのような演算を行っているかなどを考えさせる場面を設けたりして, 図や式に表されている意味を読み取らせる指導を充実させる必要があります。